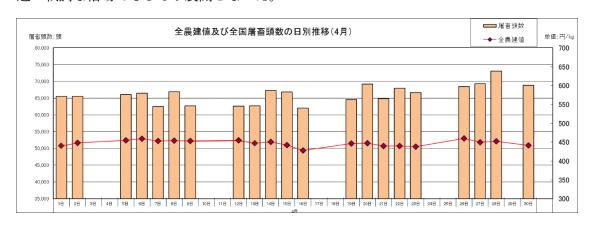
肉豚インフォメーション(4月)

【全農建值】

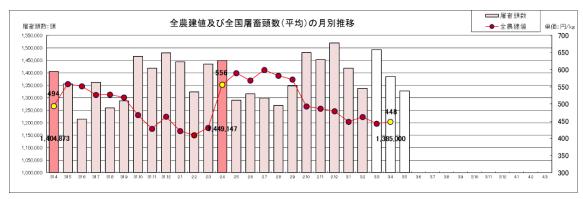
2021年4月(税抜)	2020年4月(税抜)
448 円/kg(108 円安)	556 円/kg

4月は、家庭内消費の豚肉需要はあるものの相場は伸び悩み 450 円前後で横ばいに推移 した。長期化する自粛生活から牛肉などの高級食材の需要の高まりもあり豚肉は昨年とは 違い軟調な相場でもちあう展開となった。



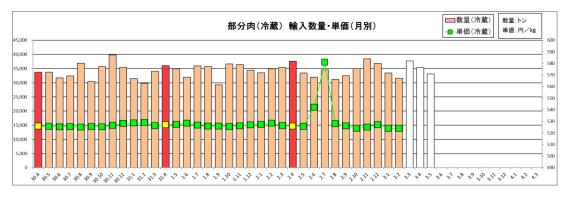
5月以降の動向

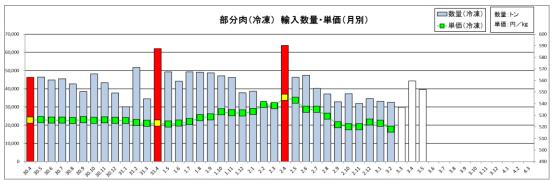
出荷頭数は、5月は前年同月をわずかに上回ると予測されている。



冷蔵品輸入量は、飼料価格の高騰やアジア諸国を中心とした買い付けによる現地高等から、4月は前年同月をかなりの程度下回ると予測する。5月も同様の影響があったものの、前年の輸入量が北米の現地工場の稼働停止の影響により少なかったことから、前年同月をわずかに下回ると予測する。なお、3カ月平均も、前年同期をわずかに下回ると予測する。冷凍品輸入量は、冷蔵品と同様の影響に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による外食需要の減少や、前年の輸入量が多かったこと等から、4月は大幅に、5月はかなり大きく、いずれも前年同月を下回ると予測する。なお、3カ月平均も、前年同期を大幅に下回ると予測する。

(ALIC 豚肉の需給予測について 4月27日)





2021年4月25日から5月11日までの期間、東京、大阪、兵庫、京都の4都府県を対象に緊急事態宣言が発出されたが、期限を今月31日まで延長するとともに、愛知県と福岡県を来週12日から対象地域に加えることが決まった。引続き家庭内消費の需要が強まることが予想され、引き合いは強まりそう。

5月の出荷頭数は前年をわずかに上回ると予測されているが、平年をわずかに下回ると予測されていることから気温の高まりとともに例年とおり減少傾向となることが予想される。 輸入チルドも入船スケジュールの遅れが続いている影響もあり、販売店では輸入品から 国産に切り替えることも予想される。

4月1日値上げした内臓価格だが、3回目の緊急事態宣言の発出を受けて東京食肉市場株式会社は4月26日屠畜分より緊急かつ時限的に豚肉内蔵価格は値下げとなった。

5月11日山梨県で豚熱の感染が確認された。今回の発生で国内68例目となる。

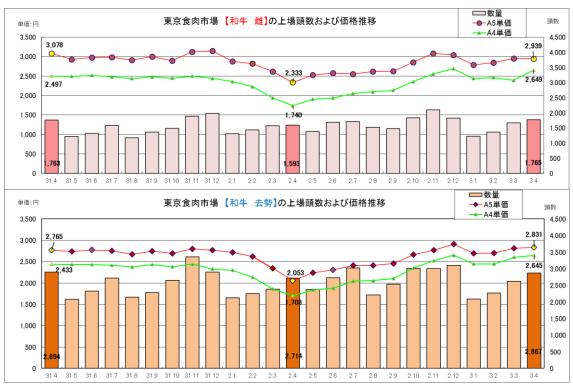
5月の相場は高値で推移する見通し。

全農建値(税抜)予測レンジは 450 円~550 円とする。

肉牛インフォメーション (4月)

●4月の動向

枝肉相場は、GW 需要への期待感から年末と同水準の高値で推移した。特に、輸入牛肉の 品不足による代替えで、交雑牛や乳牛への買いが集中し強気の展開となった。月後半からは 和牛 5 等級を中心に徐々に落ち着きをみせた。







● 5 月の動向予測

4月下旬から緊急事態宣言が発出となり GW 期間に重なることから、GW 明けの補充買いへの期待も弱い。和牛は冷凍保管事業の継続、交雑牛は品薄感が当面見込まれることから、4月相場よりは下がるものの大きな下落はないと予想。

5月相場は「弱もちあい」の展開と予想。

和牛去勢 A5 等級 2700 円 (税込み)

A4 等級 2450 円 (税込み)

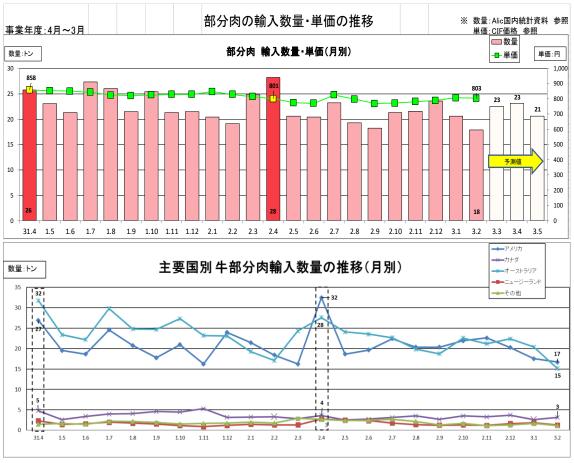
交雑去勢 B4 等級 1800 円(税込み)

B3 等級 1600 円 (税込み)

●輸入牛肉

牛肉(部分肉)輸入量について、北米からの入船遅れの影響、豪州及び米国における現地 価格の高騰等から、4月は前年同月を大幅に下回ると予測する。5月は前年に北米の現地工 場の稼働停止の影響により輸入量が少なかったことから、前年同月並みと予測する。

(ALIC 牛肉の需給予測について 4月27日)



●消費動向

緊急事態宣言の発出により GW 中の行楽需要は期待できず、家庭内消費がけん引すると 思われる。輸入牛肉の品薄が影響し、乳牛のモモ、バラの在庫はひっ迫気味。交雑牛もバラ を中心に品薄状態。和牛はバラなどスソ物中心の消費が予想される。引き続き家飲みなど巣 ごもりによる消費が期待される。

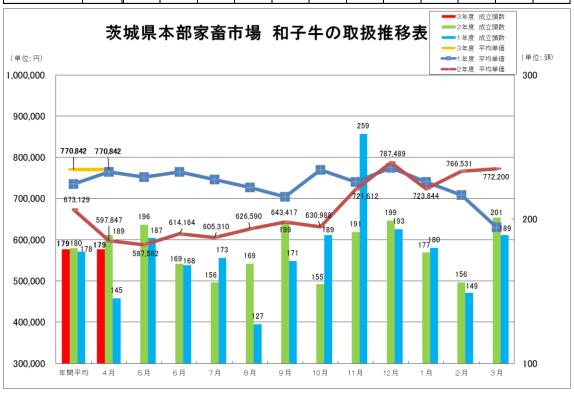
●全農茨城県本部家畜市場動向

全農茨城県本部家畜市場における素牛平均価格(4月税込)は、黒毛和種の雌は694,811円で前月比+9,472と上昇、去勢は835,115円で前月比+553円と上昇した。上場頭数(成立)は179頭で前月比▲22頭となった。次回上場頭数は236頭を予定。

全農茨城県本部家畜市場実績(和牛子牛)

(税込)

		年間平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年度	平均単価	735,223	764,223	752,015	764,621	746,382	726,806	704,141	769,994	740,279	774,343	740,581	708,666	630,626
	去勢	791,182	804,333	799,867	842,908	797,996	801,132	732,566	818,370	797,145	846,297	814,402	757,106	682,060
	雌	659,697	707,400	675,585	684,447	680,659	631,348	657,786	702,635	661,359	682,919	639,563	633,657	559,009
2年度	平均単価	673,129	597,847	587,552	614,164	605,310	626,590	643,417	630,988	721,612	787,489	723,844	766,531	772,200
	去勢	734,165	649,837	642,142	674,214	650,911	694,492	709,130	714,912	794,798	850,944	799,476	794,563	834,562
	雌	598,275	513,364	510,047	545,753	561,990	550,285	562,199	552,310	635,950	707,450	630,022	724,591	685,339
3年度	平均単価	770,842	770,842											
	去勢	835,115	835,115											
	雌	694,811	694,811											
1年度	成立頭数	178	145	187	168	173	127	171	189	259	193	180	149	189
2年度	成立頭数	180	189	196	169	156	169	199	155	191	199	177	156	201
3年度	成立頭数	179	179											



食肉インフォメーション(4月)

新型コロナウィルス感染症の影響で、2月の外食産業の食肉需要は前年同月比77.7%と報告されている。外食が低迷する一方で小売業は堅調に推移し、前年同月比は100.9%を維持している。例年、4月~5月は春の行楽期であり、スーパー量販店の売り場では今年も牛・豚ともに(あるいはセット商品として)焼肉用商品が売り場を広げている。

○牛肉

焼肉商材のメインは輸入牛肉のバラ肉が中心だが、北米からの入港遅れによる輸入量の減少や、豪州を含めた原産国内でのコストアップによる価格上昇および供給が逼迫している。和牛についても同様で、相場高の中ではあるもののバラ肉の需要は増加しており、全農いばらき食肉センターの常陸牛を中心としたバラ肉在庫も徐々に回転してきている。

一方でロース、ヒレを中心に高級部位の荷余り感が出ている。4月25日より実施されている緊急事態宣言の延長が決定したため、外食産業は引き続き厳しい状況下に置かれることが懸念され、今後の販売展開に影響は避けられない環境である。

○豚肉

上述の牛肉の需要逼迫から焼肉のセットメニューに豚肉を取り入れる傾向がみられる。 国産豚は3月に入って出荷頭数が順調だったこともあり、中旬~下旬にかけて相場も軟調 に推移したため、量販店も輸入・国産の割合や汎用品・こだわり品の割合構成を柔軟に対応 して利益を確保する傾向にある。緊急事態宣言の延長が決定したため、家庭内消費中心の消 費動向が継続すると予想される。

○業態別概況

表:全農いばらき食肉センター 業態別取引先実績(令和3年3月期)

年度	J A	どきどき	給食	仲卸	食肉	量販店	飲食店	合計
					専門店			
令和2年	12,559	12,717	742	26,988	9,990	11,386	7,934	82,316
3月								
令和3年	12,983	14,442	7,575	30,766	12,093	12,661	8,543	99,063
3月								
増減	424	1,725	6,833	3,778	2,103	1,275	609	16,747
対比	103%	114%	1,021%	114%	121%	111%	108%	120%

- ・令和2年3月は学校の一斉休校があったため、取扱が大幅に減退していた。
- ・緊急事態宣言下ではあったものの、3月だけをみると飲食店(仲卸経由含む)は前年より動きがあった。※令和2年度4月-3月では前年比77%と厳しい販売だった。
- ・JA 直売所、量販店等の小売業は、イベントの開催はできなかったものの、内食需要を追い風順調な販売だった。